

脳梗塞の治療のため診療を受けられた患者様/患者家族様へ

福岡東医療センター 脳神経内科では以下の研究を実施しています。

この研究は、過去の診療情報を振り返り解析する「後ろ向き観察研究」と呼ばれる学術活動です。過去に実施された検査の結果等の診療情報等を利用しますので、患者さんに新たにご負担いただく検査や治療はありません。また、学術論文や学会で公表する場合も、個人情報の保護には十分配慮し、第三者には誰のものか一切わからないようにします。

患者さんにはご自身の診療情報が使用されることを拒否する権利があります。本研究の対象に該当する可能性のある方で、情報を研究目的に使用されることを希望されない場合は下記の問い合わせ先にご連絡ください。既に学会や論文発表が行われている場合はデータを削除できない場合がありますのでご了承ください。なお、研究協力を拒否された場合でも、患者さんが診療上で不利益を被ることはありません。

【研究課題名】	SVD burden が脳梗塞後の機能回復へ与える影響についての検討
【研究実施期間】	倫理委員会承認日～2031 年 3 月 31 日
【研究実施機関・研究責任者】	独立行政法人国立病院機構 福岡東医療センター 脳神経内科 研究責任者 林田 寛之
【対象となる方】	西暦 2021 年 4 月 1 日から 2026 年 3 月 31 日に当院脳神経内科にて脳梗塞の診療のため入院し、診療、検査、リハビリなどを受けた方 874 名のうち以下に該当しない方 260 名 <除外基準> ・発症から 8 日以上経過 ・FIM 評価が1回以下 ・MRI 検査実施がない ・MRI 検査があっても SVD burden 評価ができない
【研究の意義、目的、方法】	脳の小さな血管へのダメージの蓄積(SVD burden)が脳梗塞後の転帰に影響を与えることが示唆されています。SVD burden の程度は MRI で評価できます。 機能的自立度評価尺度(FIM)という、日常診療で評価している指標を利用して、SVD burden が脳梗塞後の機能回復へどのような影響を与えているかを検討することで、未来の患者さんの予後を予測できるようにすることが目標です。 また、脳梗塞の重症度指標(NIHSS)や他の生活自立度評価指標(mRS)でも同様の検討を行うことで結果の再現性を評価します。

【利用する情報の種類】	脳梗塞の診療で得られた診療記録(年齢・性別・身長・体重・病歴・既往歴・治療歴・入院日数・NIHSS・mRS)・リハビリ評価記録(FIM)・臨床検査データ(血液検査(血算・凝固・生化学))・診断用画像(頭部 MRI)
【個人情報の保護】	研究に際して、生年月日、カルテ番号、住所、氏名などの個人が特定できる情報は収集しません。集めた情報も所定の方法で管理し、個人情報漏洩リスクを最小限にします。また、研究の結果を公表する際も個人が特定できないよう配慮いたします。
【問い合わせ先】	独立行政法人 国立病院機構 福岡東医療センター 研究責任者：脳神経内科 林田寛之 住所：〒811-3195 福岡県古賀市千鳥 1-1-1 電話番号：092-943-2331（代表）